

## EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2010.3.1

No.68



二週間にわたって開催されたバンクーバーオリンピックが二月二十八日幕を閉じました。数々のドラマが生まれ、感動のシーンに心を震わせた方も多かったことでしょう。

古代オリンピックは、古代ギリシアのエーリス地方、オリュンピアで四年に一回行われた当時最大級の競技会・祭典で、紀元前九世紀から紀元後四世紀にかけて行われていたそうです。ということは新約聖書が書かれた時代にも行われていたこととなります。当時のギリシア世界を伝道して回ったパウロは、この古代オリンピックのことを当然知っていたでしょう。そして、このことを念頭ににしたと思われる聖書の箇所がいくつかあります。

「競技をするときも、規定に従って競技をしなれば栄冠を得ることはできません。」

(第二テモテ二章五節)

聖書は「人生の歩み」を競技に例えています。

今回のオリンピックで、スケルトン女子代表の小室選手がその検査済みを確認するステッカーを誤ってはがして、レース前に失格となってしまうました。厳しすぎると思うかもしれませんが、規定違反に容赦はありません。私たちの人生にも規定があります。それを無視すると必ず残念な結果

## 朽ちない冠をめざして



に終わってしまうのです。その規定は、創造主が用意された救いと関係があります。聖書が言う栄冠を得るために私たちに必要なことは「自分のがんばり」ではありません。神に對する「信仰(信頼)」です。自力で救えるほど自分の状態はよくないのです。また、自分を救うほど大したことを私たちはできないのです。「自己流の規定」ではなく聖書に啓示された「神の規定」を知っていただきたいと思えます。

「また闘技をする者は、あらゆることについて自制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。…あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。」

(第一コリント九章二十四、二十五節)

神は私たちに栄冠を与えたいと願っておられます。その栄冠はこの地上のお金や名声、名誉ではありません。死んだ後にも朽ちることのない霊的な「永遠のいのち」です。人生の最大の目標はこの朽ちない冠を得ることである、と言っても過言ではありません。

地上の栄冠を得るために人は様々な試練に耐え、練習を重ねます。しかし、個人の力では限界もあります。今回のオリンピック終了後、日本選手団長の橋本氏が次のように言っていました。「スポーツの重要性を国が分かってくれるか、国の力を頂いて(関係団体が)連携を図ることが競技力向上につながる」と。現に、今回躍進した韓国などは年金や報奨金、兵役などで配慮していました。(日本オリンピック委員会によると、北京五輪以前の一年間に各国が投じた選手強化費は、ドイツ二七四億円、米国一六五億円、英国一二〇億円、中国一二〇億円。日本は二七億円だったそうです)

メダルを得るために、国がお金をつぎ込む…、これもある程度は必要なのかもしれません。ただ、オリンピックの強化選手に選ばれるのはごく一部であり、恵まれた才能を持っている人だけです。一方、聖書が語る「朽ちない冠」はだれにでも与えられるものです。国家に勝る神ご自身が、金銀に勝る神の愛といのちを注いでくださったのです。以下は殉教前のパウロの言葉です。

「私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。…私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。」

(第二テモテ四章七、八節)

## 「花かご」敬虔と真理の勝利」を読んで

H

主人公メアリーは年老いた父と平凡に暮らしていました。しかしある日突然盗みの疑いがかけられるのです。ジュリエットという女が見てもいないのに、「メアリーが盗んでいるのを見た。」と言い出したのです。そのため、メアリーは牢屋に入れられ、裁判にかけられ、父ジェームズと共に国を追放されることになりました。

追放される前日、メアリーはこのように言います。「私はジュリエットを赦します。神さまが彼女に悔い改めの心をお与えになって、彼女の心を変えてくださいますように。」もし私がメアリーの立場であるなら、ジュリエットを赦すこと、また彼女のために祈ることなど、できません。しかし、自分が危機の状態にいる中で、自分をこの状態におとし入れた、ジュリエットのために神さまに祈ることが出来るメアリーの素直なやさしい心がすごいと思いました。そして、国を追放されてからも様々な困難がありました。ずっと神様に信頼し続け、歩んで行きました。最後には驚くべき方法で、メアリーの無実が証明されるのです。

この本の中で一番心に残ったことはメアリーの父に従う姿です。父は聖書からメアリーに必要な教え、またアドバイスをします。

メアリーが捕まる直前、父は「どんなときにも神様に従いなさい」と言いました。そしてその言葉通りメアリーはずっと神様に従い続けました。

メアリーのように、どのようなときにも神様に信頼し、両親の言うことに聞き従うことができるようになりたいとこの本を読んで思いました。

## 「こんなことしました！」行事報告

二月

- 一日 N・十四歳誕生日
- 十一日 第一回関西ホームスクール交流会
- 二十日 Jクラブ「粘土でキーホルダー①」
- 二十三日 塗り絵・工作教室「針金細工」
- 二十五日 合同公文教室・カンボジアレポート
- 二十七日 Jクラブ「粘土でキーホルダー②」

## 関西ホームスクール交流会

56名集まりました。



初めて作った針金細工。

写真は自転車とかぶと虫、恵利也の作品です。



## 第一回 関西ホームスクール交流会

R

A家に声をかけてもらって香芝であったホームスクール交流会に行かせてもらいました。五十六名のホームスクーラーの友達が集まりました。初めての友達もいました。子供たちは映画を見たり、風船・工作などで遊んだりしました。お昼はみんなのお母さんが持ち寄りでおいしいご飯を作ってきてくれました。歌を歌ったり、大人の人は交わりをしたりしていました。雨が降って来たので公園には行けませんでしたが、でも中で十分楽しめました。

メチャメチャかわいい二歳くらいの子供たちと遊びました。まだ二歳なのにお母さんと離れても大丈夫ですごくびっくりしました。

友達といっぱい遊んでいっぱい食べていっぱいお話できたので嬉しかったです。

最後にIさんがクッキーを作ってくれて一人ずつもらって帰りました。Aさんがいろんな用意してくれてすごく楽しい交流会でした。また、九月にも予定しているので絶対行きたいです。

## 編集後記

手品にはまっている者一人。図書館で本をたくさん取り寄せ、日々研究。まわりは何度も観客にさせられています。テクニクを必要とするマジックがありますが、徐々に腕をあげています。紙面で紹介が難しいのが残念…。